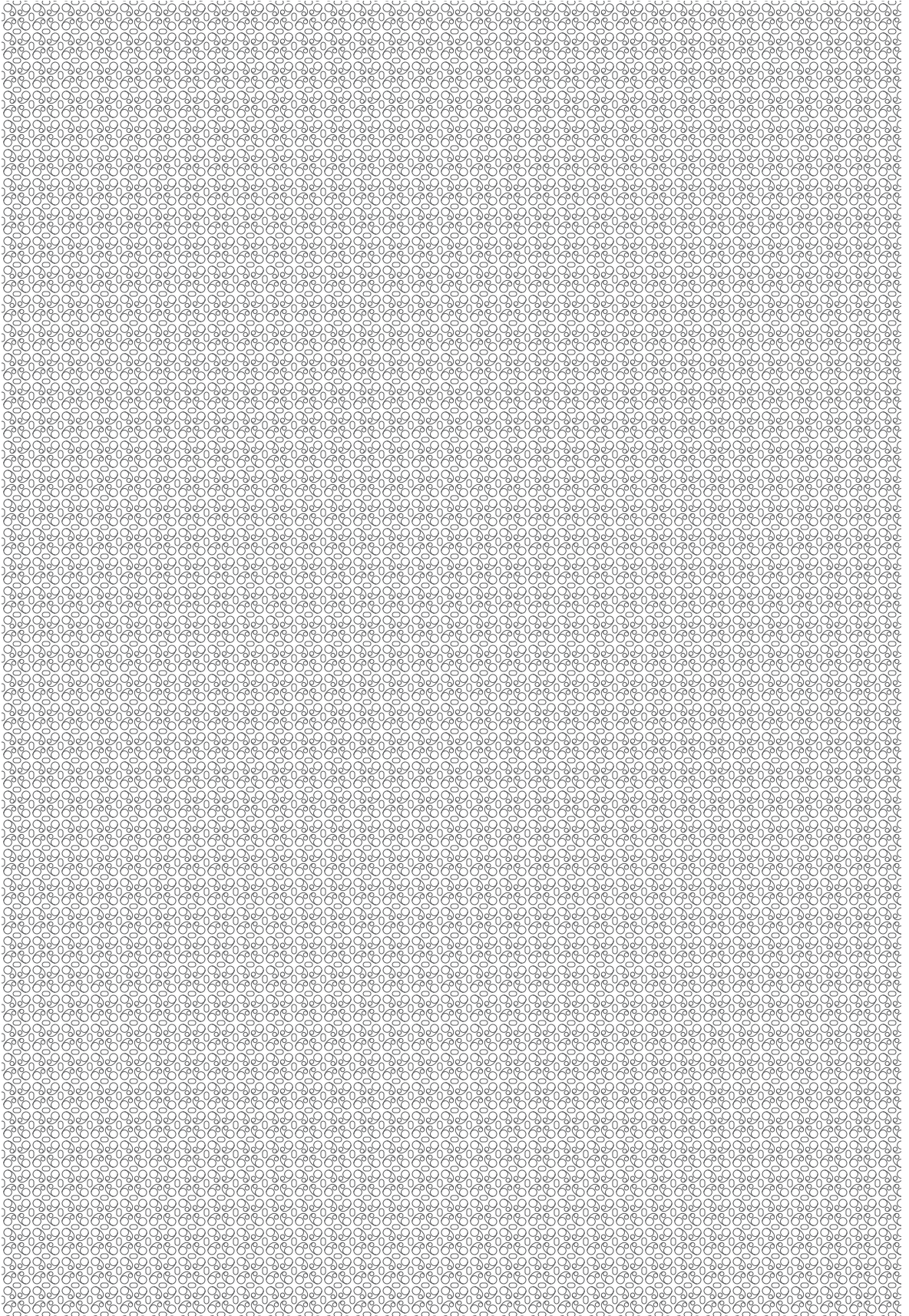


2026年度入学試験問題

国語

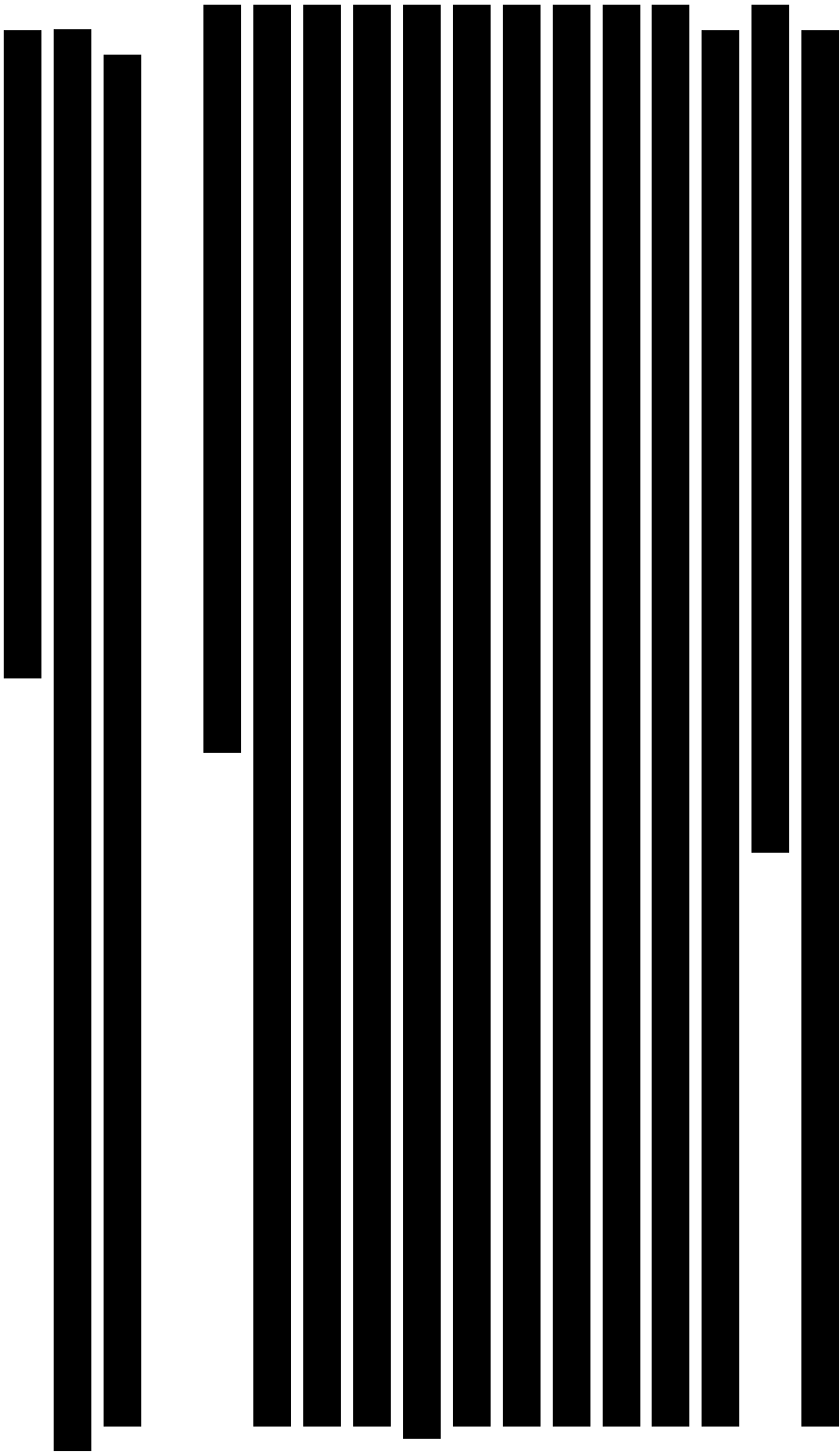
(試験時間 15:00～16:00 60分)

1. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。
2. 解答は、必ず解答欄の枠内に記入もしくはマークしてください。解答欄以外への記入およびマークはすべて無効となります。特に、記述解答用紙の採点欄に解答を記入しないよう、注意してください。
3. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、一度マークした箇所を修正する場合、しっかりと消してください。消し残りがあると、解答が無効となることがあります。また、消しくずを残さないでください。
4. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きを使用しないでください。
5. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入・マークしてください。未記入や記入・マークミスなどがあつた場合は、当該科目の解答は無効になります。



一 次の文章を読んで後の問に答えなさい。(50点)

※著作権の関係により、掲載ができません。



[Redacted text block]

[Redacted content]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

注


[Redacted text block]

[Redacted text block]

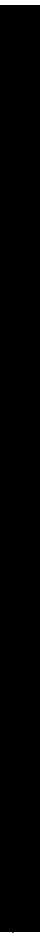
(王寺賢太『消え去る立法者』による)

4

〔問一〕 傍線(1)(3)のカタカナを漢字に改めなさい。(楷書で正確に書くこと)

〔問二〕 傍線(2)「」とあるが、この内容の説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 市民の自由な意志を反映して選挙された立法者が多数決で法律を制定し、この法律が市民の行動を規制すること。
- B 市民が自発的意志により統治者に主権を委任し、統治者が政治体全体の幸福を増進させる目的で統治を行うこと。
- C 市民がその水平的な相互関係に基づいて政治体を構成し、政治体の意志が定めた法律が市民に義務を課すこと。
- D 市民が政治体の「脳」となって立法を行い、独裁的統治者が出現することのない公正な社会を実現すること。
- E 市民感情に寄り添うプロセスを経た立法と統治により政治体が運営され、市民の自由と平等が守られること。

〔問三〕 傍線(4)「」とあるが、筆者がそのように

考える理由を50字以上60字以内で説明しなさい。(楷書で正確に書くこと。句読点や記号・括弧も字数に数え、一字につき一マス用いること)

〔問四〕 次の文ア～オについて、本文で述べられていることと合致しているものに対してはA、合致していないものに対しては

Bの符号で答えなさい。

ア ルソーによれば国家の統治を家族の統治になぞらえるのは不適切であるが、その理由は家族が親と子の自然な力関係を反映して統治されるのに対して、国家の統治は協定に基づいており、政治体に備わる立法権に従って行われねばならない点にある。

イ ホッブズは国民から自然権を移譲された権威的な主権者を想定してその統治を容認し、モンテスキューはこれに反対して人民こそ主権者だと主張したが、ルソーは人民を権威的な主権者の地位に据えることでホッブズとモンテスキューの折衷案ともいえる立場を形成した。

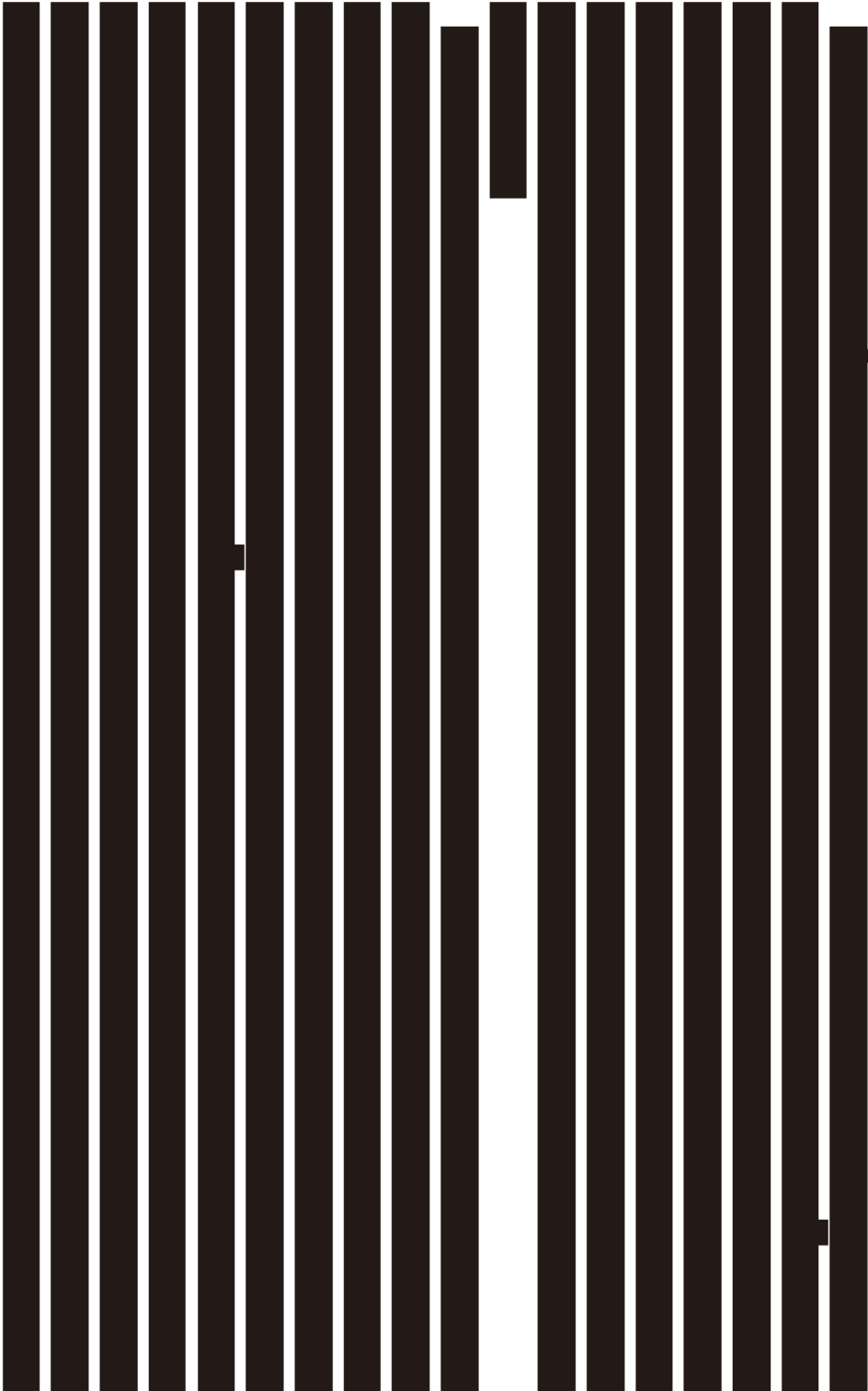
ウ ルソーの比喻では、人民が保有する主権は「頭」に、法律は「脳」に相当するが、「脳」を通して全身から「頭」へと情報が伝わる様子は政治体による立法に、「頭」が「脳」を通して消化・循環器系を含む全身を動かす様子は政治体による行政に、それぞれ相当する。

エ 政治体において正義と自由を両立させるためには人民の一般意志により法律を制定することが必要であり、こうして制定された法律が個人に従属を求めることがあったとしても、人民主権を唱えるルソーはそれを正統な統治のあり方として肯定する。

オ プラトンが考えた理想的な立法者は必ずしも市民に平等をもたらすことを意図しておらず、ルソーが考えるような富者に対する貧者の闘争を導き平等を実現する立法者とは異なるが、政治体に正義をもたらす統治者である点において両者は一致している。

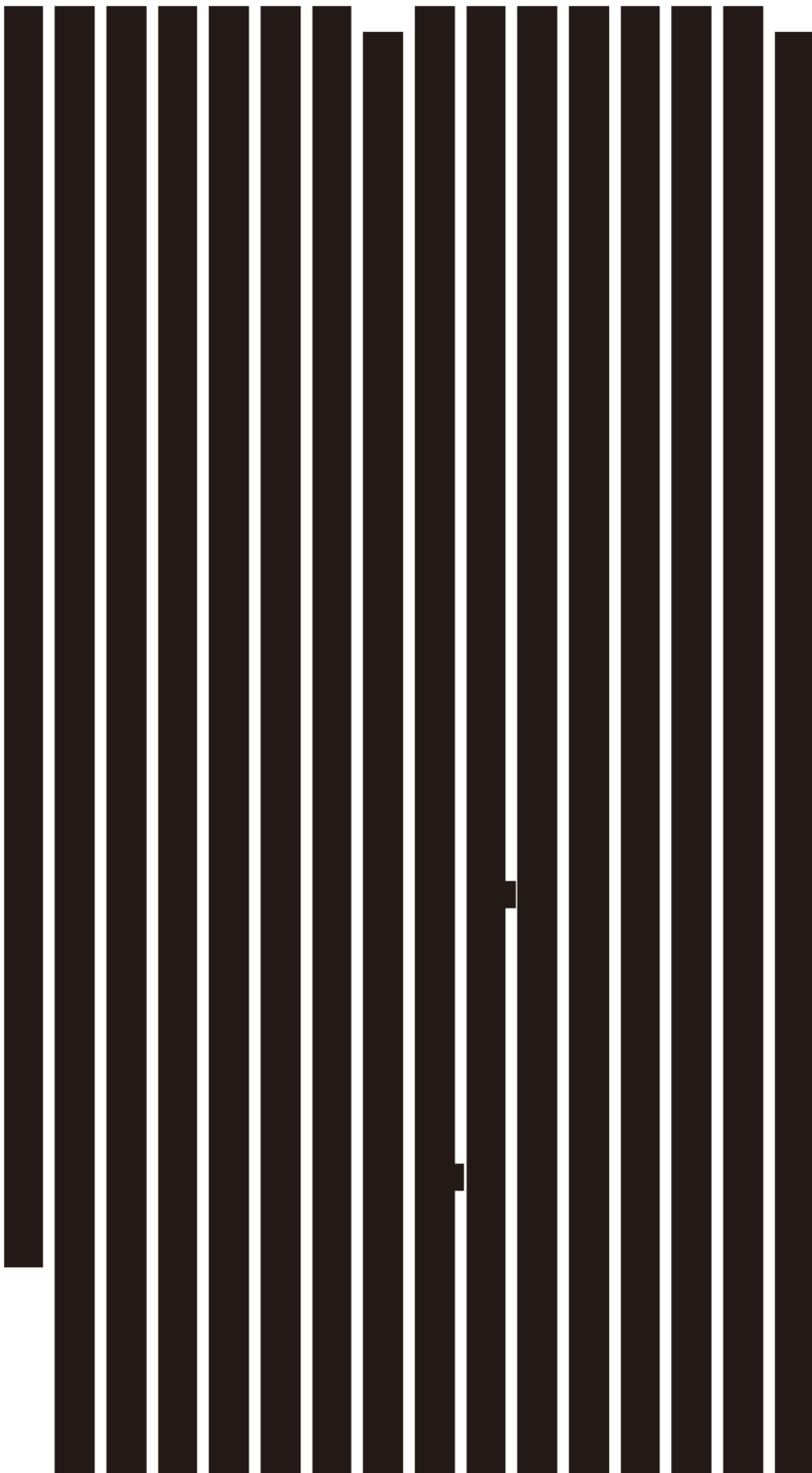
二 次 の 文 章 を 読 ん で 後 の 間 に 答 え な さ い 。 (20 点)

※ 著 作 権 の 関 係 に よ り 、 掲 載 が で き ま せ ん 。




[Redacted text block]

(エドワード・W・サイード『知識人とは何か』(大橋洋一訳)による)



注

[Redacted content]

〔問一〕 傍線(1)「」とあるが、これに関する筆者の考えとしてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 知識人は支配階級の出身者が多く、こうした生い立ちもあって、ともすれば利己的な振る舞いが目立ち、社会において抑圧されている者の存在には無頓着であるが、例えば政治の変革などに接することで自らを客観視し、人間的な配慮と誠意ある姿勢を取り戻すことで、虐げられた人々が政治的に解放される方途を追い求めるべきである。

B 知識人はイスラームと非イスラーム、白人と原住民といった各種対立の中で、いつもどちらの側につくかという選択を迫られる存在であるが、その際政治的指導者の側につくのは必ずしも否定される訳ではなく、むしろ重視すべきはインドのタゴールやキューバのホセ・マルティのように民族主義者であることをつらぬく役割である。

C 知識人は第三世界の多くの国々にて勝者の凱旋行進に抵抗するという機会にいつもめぐまれているが、民族存亡の危機をかけた反植民地闘争などの戦いの只中であって、たとえ絆で結ばれた共同体との関係において苦しみを強いられようとも、目の前にある生存などの問題を解決するより新しい魂の創出を優先する責任を負っている。

D 知識人は一人の人間として誠意ある姿勢をとり続ける責任を負っており、アラブ・イスラーム世界においてすら権威筋を批判し、リベラルで個人主義的な「主体性」の構築を目指すなければならない一方、その際に自らが属する共同体との断ち切れない有機的な絆が存在しているがゆえに、民族主義に配慮して振る舞う必要がある。

E 知識人はつねに戦いの目標が何であるのか、その選択肢の分析に取り組んでおり、たとえ民族存亡の危機のような非常事態で追い詰められていたとしても、植民地主義からの脱却だけを念頭におくような感覚の麻痺に陥ってはならず、人々の生命・財産を最優先にしながらも、政治的解放の代替的可能性を模索しなければならない。

〔問二〕 空欄(2)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A にはまは委ねておくことがむしろ得策という考え方もある
- B が掌握したならばまず例外なく迷走がはじまることとなる
- C から奪いとってしまわなければ存在意義を喪失してしまう
- D にゆずりわたして傘下に入るだけではじゅうぶんではない
- E はいつもたんなる政争の具としかとらえていないのである

〔問三〕 次の文ア～オについて、本文の趣旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア フランツ・ファノンの指摘の要点は目標の設定にあり、つまるところ知識人は新しい魂の創出を志向すべきだという主張であるが、これは植民地主義から脱するというありふれた方法を批判するに留まらず、民族や家族といった概念すら批判的に捉え、すべての共同体を再構築しなければならないことを意味している。

イ 民族主義は、かつての日本のように極端な軍国主義をもたらし、個人を国家に従属させ、他の人種をさげすむことに利用されたり、第三世界において自己防衛的な反植民地闘争の原動力とされたりする側面も認められるが、敗残者の側に寄り添い、指導層を厳しく批判してきた民族主義者の知識人もまた存在している。

ウ 多元的で複雑な様相を呈するアラブ・イスラーム世界において「イスラームこそ本道」なのだと説く集団の主張は、旧き良き過去のイスラームの回復や再現を望む貧しい人々に受け入れられやすいが、イスラームについての解釈も多様であって、知識人は声をあげて代替的可能性を示していかなければならない。

エ 明治時代に日本の知識人により発案された〈天皇制イデオロギー〉は、その後変貌を遂げて「指導民族」といった考え方を生み出すこととなったが、こうした動きはカリスマ的煽動者に追従するイスラーム圏の知識人にも見て取ることができ、教条主義の横行が非イスラーム系の少数者や女性の権利を侵害している。

オ 知識人が執拗にさいなまれる苦しみは、ボスニア人やパレスチナ人のように肉体的な消滅の危機に直面している各地の人々を目の当たりにした時であっても、すぐそこにある生存の問題を等閑視し、民族主義にも植民地主義にも批判的な姿勢をとらざるをえないという自らの使命に起因したものである。

〔問四〕 本文の全体を通じて、筆者は「知識人」がどのようにあるべきと考えているか。「知識人は」という書き出しで、「共同体」と「批判」という二つの言葉を用いて20字以上30字以内で説明しなさい。(楷書で正確に書くこと。句読点や記号・括弧も字数に数え、一字につき一マス用いること)

三 次の文章は『枕草子』の一節で、宮仕えをする女房が実家に戻っている際の訪問客との交際の不自由さについて記したものである。これを読んで後の間に答えなさい。(30点)

宮仕へ人の里なども、親ども二人あるはいとよし。人しげく出で入り、奥の方にあまた声々さまさま聞こえ、馬の音などして、いと騒がしきまであれど、咎もなし。されど、しのびてもあらはれても、おのづから、「出でたまひにけるをえ知らで」とも、また「いつか、まゐりたまふ」など言ひにさしのぞき来るもあり。心かけたる人、はたいかがは。

門あけなどするを、「うたて。騒がしう」「おほやうげに。夜半まで」など思ひたる気色、いと憎し。「大御門は鎖しつや」など問ふなれば、「いま。まだ人のおはすれば」など言ふ者の、なまふせがしげに思ひていらふるにも、「人出でたまひなば疾く鎖せ。この頃、盗人いと多かなり。火危うし」など言ひたるが、いとむつかしううち聞く人だにあり。

この人の供なる者どもは、わびぬにやあらむ、「この客、いまや出づる」と、絶えずさしのぞきて気色見る者どもを、笑ふべかめり。真似うちするを聞かば、ましていかにきびしく言ひ咎めむ。

いと色に出でて言はぬも、思ふ心なき人は、かならず来などやはする。されど、すぐよかなるは、「夜ふけぬ。御門危ふかなり」など笑ひて出でぬるもあり。まことに心ざし殊なる人は、「はや」などあまたびやはるれど、なほ明かせば、たびたび見歩くに、明けぬべき気色をいとめづらかに思ひて、「いみじう。御門を、今宵らいさうと開けひろげて」と聞こえごちて、あぢきなく暁にぞ鎖すなるは、いかがは憎きを。

親添ひぬるは、なほさぞある。まいて、まことのならぬは、「いかに思ふらむ」とさへつつまし。兄の家なども、けにくきはさぞあらむ。

(『枕草子』による)

注

おほやうげに……あつかましいものだ。 大御門……外構えの正門。 なまふせがしげに……なんとなく迷惑そうに。
やはるれど……追い払われるけれど。 らいさう……だらしない。 けにくきは……気詰まりな点は。

〔問一〕 傍線(1)「出で」の説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 女房が出仕先から実家に帰省すること。
- B 女房が実家を出て宮仕えしていること。
- C 女房の親が娘を残し外出していること。
- D 女房が訪問客に会いに出かけていること。
- E 女房が訪問客と同じ所に仕えていること。

〔問二〕 傍線(2)「心かけたる人」の説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 娘の交際相手を心配する親。
- B 女房が大切に思っている親。
- C 女房に思いを寄せている人。
- D 女房が好意を抱いている人。
- E 女房の親に気を遣っている人。

〔問三〕 傍線(3)「いらふるにも」、(6)「言ひ咎めむ」の主語としてもっとも適当なものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

- A 女房の親 B 女房 C 女房の実家の使用人 D 訪問客 E 訪問客の供人

〔問四〕 傍線(4)(8)(10)の解釈としてもっとも適当なものを左の各群の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

(4) 「むつかしう」

- A もの悲しく
B やりきれなく
C わずらわしく
D かわいげがなく

(8) 「すくよかなる」

- A 一途いちずな人
B 健康的な人
C さわやかな人
D きまじめな人

(10) 「あぢきなく」

- A 何事もなかったかのように
B にながしげに
C 情け容赦なしに
D 残念そうに

〔問五〕 傍線(5)「わびぬにやあらむ」とあるが、筆者がそのような思う理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 今か今かと主人の帰りを待ちつつ家の中の様子を窺^{うかが}う供人の様子があまりにも無様に見えるから。
- B 訪問客がなかなか帰ろうとせず迷惑がっている使用人の様子を見て、供人が笑っているようだから。
- C 訪問先の人たちが迷惑がっているのにもかかわらず、客が帰るそぶりさえ一向に見せないから。
- D たとえ訪問先に迷惑をかけているとしても、供人の分際で主人に帰りを促すことはできないから。
- E 供人の主人が訪問先の使用人の仕事をばかにするだけでなく、彼らの真似までし始めているから。

〔問六〕 傍線(7)「思ふ心なき人は、かならず来などやはする」の内容の説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 恋愛感情があるからこそきまつて実家にまで逢^あいに来るのだ。
- B 相手への配慮があるならば絶対に実家にまで来ないはずだ。
- C 相手に対して不満があるならばあえて実家にまで来ないものだ。
- D 好きだからこそ手間を惜しまず夜遅くを選んで逢^あいに来るのだ。
- E やましい気持ちがないからこそわざわざ実家に逢^あいに来るのだ。

〔問七〕 傍線(9)「いとめづらかに思ひて」とあるが、誰のどのような気持ちであるか。その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 訪問客を早く帰すことばかりに気を取られて、既に夜が明けそうなのに気づかなかったことにとまどう使用人の気持ち。

B 使用人からの度重なる嫌がらせをものともせず、夜明けまで決して帰ろうとしなかった訪問客にときめく女房の気持ち。

C 特別な男性の来訪だと知りながらも、夜明けまでしつこく二人の様子を見に来る使用人の態度に失望する女房の気持ち。

D 帰るように何度も圧力をかけ続けたにもかかわらず、ついに夜明けまで居座り続けた訪問客にあきれ使用人の気持ち。

E これまでは遠慮して早い時間に帰っていたなか、初めて彼女の実家で迎えた夜明けの雰囲気感動する訪問客の気持ち。

